

東恩納組 1000万円寄付

本紙に託す 「他企業の呼び水に」



支援の輪

首里城再建へ

首里城火災を受け、建設業の東恩納組（那覇市、喜

早期再建に役立ててほしいと1千万円の寄付金を沖縄タイムス社の武富和彦社長（右）に託す東恩納組の東恩納惟取締役統括部長（中央）と玉城判取締役常務11日、沖縄タイムス社

納義昭社長）は1日、再建に役立ててほしいと沖縄タイムス社（武富和彦社長）に1千万円の寄付金を託した。再建には膨大な金額がかかるため、いち早い寄付行動を取ることで他企業の呼び水とするのが狙い。

（1面参照）

同日朝の役員会で東恩納厚会長が「首里城は県民の心のよりどころ。県内企業としてここで動かなければ

いけない」と提案し、即決したという。

会長代理で社名入りの袱紗に現金1千万円を包んで寄付金を託した東恩納惟取締役統括部長は「いつもあるのが当たり前だと思っていた首里城が焼失し、心に穴が空いた感覚だ。1日でも早い再建へ県民一丸となつて動くきっかけとなれば」と寄付行動の広がり期待した。

武富社長は「預かったお金は行政の動きを見ながらしっかりと役立てていく。しかるべきタイミングで活用していく」と再建の動きが具体化した際に関係機関に寄付するとした。